



PLAZA IMS

プラザイムス

秋

2005/秋号
Vol.3

— 病院理念 —

リハビリテーション医学を実践し
患者様の幸せ・満足に貢献する病院

— 基本方針 —

- ・ 高度な医療・看護・リハビリテーションの知識を高め実践します。
- ・ チームアプローチに基づいた医療を提供します。
- ・ 早期の患者様の社会復帰を目指します。

埼玉みさと総合リハビリテーション病院

病院ロビーにある水槽



していきますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

より高度な医療・看護・リハビリテーションを目指し、
の理念・目標も同様であります。

また、回復期リハビリテーションの実践は、チームアプローチを抜きにはできません。各職種間の情報を共有して、最終的に患者様の社会復帰、社会参加を目指すもので、当院の理念・目標も同様であります。

回復期リハビリテーション病棟のケア・10項目宣言」が作成されました。これは自宅での日常生活を意識した看護・リハ技術を看護サイドにも導入してケアに生かそうというもので、病棟における「質的整備」の指針と言えきものであります。

昇が、将来の日常生活動作(ADL)に重大な影響があります。2003年には、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会・看護研修会において「回復期リハビリテーション病棟のケア・10項目宣言」が作成されました。これは自宅での日常生活を意識した看護・リハ技術を看護サイドにも導入してケアに生かそうというもので、病棟における「質的整備」の指針と言えきものであります。

広報誌秋号の発行です。残暑は厳しい折ですが、どのようにお過ごしでしょうか。四季を楽しむ余裕が大切でしょう。暑いときは暑いなりに、寒いときは寒いなりに楽しめれば最高だと思います。当院は、平成17年9月に、60床が新たに加わり、全体で回復期リハビリテーション病棟が120床となりました。在院日数の減少が急性期病棟の生き残りの条件にもなっているなか、皆様のご要望に応えるべく、急性期病棟から当院への転院がよりスムーズになっております。

「回復期リハビリテーション病棟120床オープン記念号」発刊によせて

● 病院長 黒木 副武



祝 つくばエクスプレス開業!!

詳しくは、裏面をご覧ください。

祝

秋葉原から20分。つくばエクスプレス開業(2005.8.24)で当院へのアクセスが、ますます便利!

沿線に「知」と「情報技術」が結集された未来型鉄道

「つくばエクスプレス」は、「電気街の街」からITを駆使した情報発信基地へと変貌を遂げる秋葉原から、筑波研究学園都市に代表される先進的・国際的で、筑波山などの自然豊かなつくばを最速45分で結ぶ都市高速鉄道です。沿線には東京大学のキャンパスがあるなど、最先端の研究・教育機関が並び都市未来型鉄道として、発展が大いに期待されています。

新たな文化と未来を生み出す三郷中央駅

三方を大きな河川に囲まれ、市内に水路が走る三郷市の中心部に三郷中央駅があります。三郷中央駅は、どなたでも快適に、スムーズに移動できるような設備を提供します。段差のない床、ゆとりのある改札口、そして見やすく、分かりやすい案内や使いやすい化粧室など、どなたにもやさしい、ユニバーサルデザインを取り入れた駅です。

駅から当院まで3分(お車の場合)! ほとんど一直線でお来いただけます

駅から当院まではたったの3分! 民間のバス会社を通り、ご来院も便利になっています。

東武バス=新三郷駅発 金町駅行き「リハビリ病院入口」バス停下車徒歩1分

=三郷団地発 金町駅行き「新和仲橋」バス停下車徒歩1分



0	2	4	7	10					20	25	32									45
0	2	4	7	10					17	20	23	26	30	32	40	43	46	49	52	
0	2	4	7	10	13	15	19	22	25	28	30	33	36	40	45	48	51	54	57	
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
秋葉原	新御徒町	浅草	南千住	北千住	青井	六町	八潮	三郷中央	南流山	流山セントラルパーク	流山おおたかの森	柏の葉キャンパス	柏たなか	守谷	みらい平	みどりの	万博記念公園	研究学園	つくば	

さと総合リハビリテーション病院

快速

区間快速

普通

当院で最近導入したリハビリテーション機器の一部です。

ニューステップ



座位で上下肢を交互に押し出すエクササイズマシン。背もたれ付きなので、姿勢が不安定な方でも安定してエクササイズできます。上下肢の大筋群全体に作用し、全体的な筋力強化が図れます。

ポータブルスプリングバランサー (PSB)



腕の重みをこの装置でサポートすることで、わずかな腕の動きと指が動く方であれば、自力で食事や飲み物を飲むことを補助する優れものです。

インソール加工機 (グラインダー)



回転するホイールでゴム板を削り、インソールを作成します。マニュアル作業なので、個人に合った厚さのインソールが作成できます。

編集後記

回復期リハビリテーションの活性化により、患者様にとって以下の2つが期待されます。1つは急性期病棟からより早くリハビリに移ることができ、2つは施設入所から在宅ケアへの流れができることです。当院は、9月よりこの病棟を120床に増床いたしました。願わくば、今後の医療・福祉のあり方に一石を投じていきたいと思っております。

当誌をお読みになったご意見・ご感想をぜひお聞かせ下さい。詳しくは、以下まで。

電話: 048-953-1211 FAX: 048-952-0127
メール: renkei.smr@ims.gr.jp

医療連携室 船崎 満春

埼玉みさと総合リハビリテーション病院 広報誌
Plaza ims(プラザイムス) 秋号 2005.9
発行/埼玉みさと総合リハビリテーション病院 地域医療連携室
発行日/2005年9月
〒341-0034 埼玉県三郷市新和5-207
医療法人三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院
TEL.048-953-1211(代表) FAX.048-952-0127
http://www.ims.gr.jp/saitama_misato/

開 院	昭和47年 平成15年12月(新設・増床)
開 設 者	医療法人 三愛会
理 事 長	中村 哲夫
院 長	黒木 副武
病 床 数	回復期リハビリテーション病棟: 120床(2F)(4F) 療養病棟: 55床(3F) 計: 175床
診療科目	リハビリテーション科、内科、神経内科
施設内容	回復期リハビリ病棟、療養型病棟群 総合リハビリテーション施設A 言語聴覚療法(I)
主要設備	マルチスライスCT/X線テレビ診断(VF)装置/ 特殊浴室、リハビリ浴室
附属施設	総合介護センター ・通所リハビリテーション ・三郷市在宅介護支援センター新和 ・埼玉みさと総合リハビリテーション病院 居宅介護支援事業所

特集 専門職の垣根を越えて

—— チームアプローチに基づいた医療の提供 ——

1

当院では、**全ての患者様に、1つの専門職チームが構成、「チームアプローチ」を実施**しています。チームは、患者様の退院後の生活を予測しながら共通の基本方針とプログラムを作成、それに基づくリハビリテーションを行っています。各々の職種が専門性を十分に発揮し、患者様の「ゴール」に向けて全力で取り組んでいます。今回は、**看護師・介護士とリハビリスタッフ**をご紹介します。

■ リハビリテーション科

【理学療法士・・・23名】

主に起きる・座る・立つ・歩くなどの基本的な動作を行うための身体能力の回復や向上を目指し、関節運動や筋力増強訓練、各基本動作訓練などの運動療法を行います。また、装具などの検討も行います。

●主な訓練メニュー

歩行練習

平行棒内歩行、四点杖歩行、T字杖歩行と段階を経て、安全かつ効率的な移動能力獲得を目指します。

階段昇降練習

自宅内や外出先の階段にも対応できるよう階段昇降練習を行い、活動範囲の拡大を目指します。

【作業療法士・・・19名】

食事・排泄・更衣等の日常生活に必要な動作や家事・趣味・仕事等の退院後やりたいことに注目し、治療・指導・援助を行います。また福祉用具の選定の相談も行います。

●主な訓練メニュー

トイレ動作訓練

患者様の身体状況や自宅環境によって、手摺りの位置・使用する道具（ポータブル・尿器）を検討します。

調理訓練

自宅での役割・趣味活動として調理を行います。身体状況・自宅環境に合わせ、道具の種類・使用方法を指導し動作獲得を目指します。

【言語聴覚士・・・7名】

言葉によるコミュニケーションの問題がある患者様には、聴く・話す・読む・書くといった言語機能の訓練や発音の訓練を行い、周囲の人と円滑にコミュニケーションが行えるように援助します。

また、食べることに問題のある患者様には、噛む・飲み込むといった訓練を行い、安全で楽しく食事が行えるように援助します。

●主な訓練メニュー

失語症訓練

脳の言語中枢の損傷により、「聴く」「話す」「読む」「書く」「計算」が不自由になった患者様には、コミュニケーション能力の改善を目的とした訓練を行います。また、ご家族へのコミュニケーション方法についてのアドバイスや代償手段の検討も行っています。

摂食嚥下訓練

筋力を強化する体操・嚥下反射促進のためのマッサージや、実際に食物や水分を用いた咀嚼（そしゃく）・のみ込みの訓練などを行っています。必要に応じて嚥下造影検査を行い、患者様に適した食事形態や食べる姿勢などを評価、訓練に活かします。

(人数は8月1日現在)



■ 看護部

入院生活が安全・安楽に過ごせ、早期社会復帰ができるよう支援します。

日常生活に密着した訓練を積極的に行うことで、家庭に戻ってからの生活を想像しやすくなり、リハビリテーションへの意欲向上にもつながります。

●ある1日の生活

6:00【起床・洗面・更衣】

朝は規則正しい生活の第一歩です。起きて顔を洗い、できる限り自分で寝巻きから日常着に着替えます。

8:00【朝食】

食事は病室ではなく、その都度デイルームへ集まり、他の部屋の方達とも話をしながら楽しく過ごします。

8:50【リハビリ開始・病棟リハビリ】

毎朝、個別のリハビリ時間割が出ます。確認後1階のリハビリテーションルームでリハビリ開始です。またその時間外にも、リハビリスタッフから出されたメニューを病棟スタッフが付き添ってリハビリを行います。

12:00【昼食】

飲み込みの訓練を行っている患者様には、嚥下評価を行います。

13:00【リハビリ開始】

午後のリハビリスタートです。

14:00【入浴】

リハビリの時間と重ならないように、患者様の状態・回復度に合わせて3タイプの浴槽のいずれかを使います。

15:00【回診】

体調についての不安やリハビリに対する質問など、医師に気軽にご相談できます。

16:00【ご面会】

ご面会に来られたご家族様との楽しいひとときのため、デイルームや1階フロア、屋外広場をご自由にお使いいただけます。

18:00【夕食】

ゆっくりと召し上がってください。

20:00【洗面・更衣】

口腔のケアは肺炎を防ぎ、マッサージにもなり、嚥下の基礎訓練でもあります。日常着から寝巻きに着替えます。

21:00【就寝】

夜間は、各フロアに3人のスタッフがいます。安心してお休みください。



病棟リハビリの一例

まず、座位をとることから始めます。始めは食事の間だけでも座位をとれるよう車椅子に乗車していただき、それが出来た段階で次のステップに移ります。



ステップ1.....車椅子移乗・食事をとる

ステップ2.....立ち上がり・立位保持

ステップ3.....平行棒またはウォーカー歩行

ステップ4.....階段昇降・杖歩行